

繊維系三学会合併に関する協議会（第6回）議事録

【日時】2024年10月11日（金）17：00～19：00

【方法】オンライン開催（MS Teams）

幹事学会：日本繊維製品消費科学会

【出席】（敬称略）

	繊維学会	日本繊維製品消費科学会	日本繊維機械学会
会長	辻井 敬亘（京都大学）	大矢 勝（横浜国立大学）	田上 秀一（福井大学）
副会長	濱田 仁美（東京家政大学）	榎本 雅穂（京都女子大学）	金井 博幸（信州大学）
副会長	増田 正人（東レ）	（欠席）小田 直規（東レ）	倉敷 哲生（大阪大学）
副会長	村瀬 浩貴（共立女子大学）	森下あおい（滋賀県立大学）	西脇 剛史（アシックス）
事務局長	山本 恵美	西 良造	高平 恭護
事務局	—	山田 勲（記）	—

WGメンバー（オブザーバー参加12名）（敬称略）

内田 哲也（岡山大学）、上條 正義（信州大学）、薩本 弥生（横浜国立大学）、櫻井 伸一（京都工芸繊維大学）、杉浦 和明（京都市産業技術研究所）、武野 明義（岐阜大学）、竹本 由美子（武庫川女子大学）、西村 正樹（大阪産業技術研究所）、花田 朋美（東京家政学院大学）、廣垣 和正（福井大学）、藤田 雅夫（共立女子大学）、道信 剛志（東京工業大学）

【内容】

1. 最終答申に向けて

前回8月29日開催の協議会（第5回）では、各WGから中間答申に関して説明がなされ、意見交換が行われた。それを踏まえ、今回は各WGからの最終答申に向けて事前説明を受けることとなった。前回の中間答申の冒頭で説明された以下の点が再度確認された。

- ・「現行3学会の活動をどのように落とし込めるか、成立するか（現会員サービス、リソースの有効活用という観点では重要）」に加えて、「合併した1学会としてどうあるべきか」という観点から、大まかな方針・考え方、体制、課題を検討。
- ・各学会で理事会を通じて検討し、フィードバックを受け、ビジョン・ミッションをブラッシュアップする。
- ・今後は、会員公聴会を設け、会員からの意見を吸収し、一学会としてどうあるべきかを検討して賛同を得る。

討議内容

- ・**辻井会長**: 今後の進め方を再度WGメンバーとも確認しながら進める。合併後の一学会としてのビジョン・ミッションを明確にし、会員との意見交換とブラッシュアップは必須。特に、リソースの有効活用と現行会員サービスを維持・向上させる方法について具体的な提案が求められる。
- ・**田上会長**: 会員との意見交換を早急に実施する必要がある。今回の答申をさらにブラッシュアップする答申を具体的にいつまでに用意するのか、フィードバックをいつ頃にするのか、スケジュールを明確に設定したい。
- ・**西事務局長**: 3月末までに理事会承認を得るために、各学会の内容を会員に分かりやすく、簡潔にプレゼンテーションすることが重要。意見交換をしっかり行き、会員の声を反映した形で最終答申の改定としてまとめていただきたい。

次のアクション

- ・各WGは最終答申を10月31日までにまとめ、11月中旬以降に会員公聴会を設ける準備を進める。

2. 各WGの最終答申

（1）事務局検討WG（田上会長より）

- ・合併契約書の取り扱い、事務局体制・拠点、役員体制、支部体制、表彰、委員会組織、定款、財務等について詳細な議論が行われた。特に、各学会の事務局の統合方法と拠点の配置について具体的な案が検討された。
⇒各項目のコンセプトと具体的な内容をさらに詰め、フィードバックを反映した最終案をまとめる。

（2）将来構想WG（森下副会長より）

- ・ビジョン、ミッション、アクションプラン、認知度向上、若手育成等に関する詳細な提案が行われた。特に、三学会合併による相乗効果を最大限に引き出すための具体的な企画案が提示された。
- ・新学会のWG提案；各委員会のもとにWGを設置（国際交流WG、戦略提言WG、情報化WG、サステナビ

チティWG、ウエルビーイングWG、技術継承WG)。三学会合併の効果を生かす異分野合同WGの設置。若手の交流を促し、人材育成につなげる若手委員会WGの設置。

- 初期に重要な組織から優先順を示し、中長期の展望を踏まえ、どのような展望とするのかを示してほしい。
- 若手として高校生を候補にしてはどうか。

⇒各提案について、さらに具体的な内容と中長期計画を策定し、最終案としてまとめる。

(3) 学会誌検討 WG (村瀬副会長より)

- 新学会誌のコンセプト、電子化の進め方、予算等について議論が行われた。現状の冊子形式と電子化のメリット・デメリットについて詳細に検討された。
- 繊維に関する幅広い情報を提供し、会員はもちろんのこと、異分野の研究者・技術者との交流を促すような学会誌を目指す。
- 完全電子化については広告・購読収入の維持対策が不明確なので、冊子郵送+J-Stageでのスタートが妥当と考える(12冊/年)。将来、完全電子化と全文XML化などを検討していきたい。
- 発行部数は2500部として、概算で700万円～1800万円と幅が広い。前田印刷を前提に費用見積する。

⇒学会誌の具体的な内容と予算見積もりを精査し、最終案を策定する。

(4) 論文誌検討 WG (大矢会長より)

- 論文誌の統合案について一案合意には至っていない。特に、JFST(英文)と第二誌(和文のみor和文・一部英文)の扱いについては平行線状態が続いている。繊維機械学会からはJTE(日本繊維機械学会誌)継続の方向性が主張されている。
- JFST(英文)+和文第二誌の案が、繊維機械学会に受け入れられていない。
繊維機械学会(案) ; JFST+日本繊維学会誌(和文・英文) ⇒英文はJTEの継続分。
- 複数の論文誌を刊行する場合、各論文誌の位置付けを明確にしておくことが必要。「1学会」として論文誌がどうあるべきかという観点で積極的な議論をしてほしい(辻井会長)。
- いろいろな議論が生まれてきた経緯; JFSTは中身も変わらないといけないと指摘があった。繊維機械学会では編集委員長の意向もあり、意見を出した。和文誌は継続できないこともあったと伺い、廃止されるかもしれないと危惧している(田上会長)。
- 会員の皆様に答申案を2つ並べて、メリット・デメリットを見せるのがよい。JFSTについては、海外の研究者も入れて、IFを高める。和文誌の価値をもっと高めていくが、英文も受け入れることにしては。和文誌を国内に特化する案もある。(倉敷先生)
- 第二誌中の英文としてJTEの流れを引き継ぐ内容のみを残すのは難しいと考えている。JTEの分野が前面に出てしまい、その分野だけを特別扱いすることはできない。会員にどう説明してよいのか困る(大矢会長)。
- 2誌目も英文を受け入れるのなら、和文/英文以外の棲み分けが必要となる。ただ、そのために英文の技術系論文をJFSTから外すのは、IFを高める議論とは反するのではないか、三学会が一緒になるにあたり分けてしまうはどうかとも思う。もう少し調整をしてもらえるとありがたい(辻井会長)。
- 日本繊維学会誌(和文・英文)の英文は、技術色が強い論文(英文)を入れていく話である。JTEという言葉は後継誌に引き継いでほしい(田上会長)。
- WGでの議論をもとにたたき台を出して、会員との意見交換の中で検討してもよいのではないか。ある分野だけ英文を受け入れるのは難しい。全分野で(英文)を受け入れるのであれば、2誌目をどう位置付けするのかを議論してもらいたい。一つの論文誌の中でいくつもの分野をまたいで出せるようにしたい。最終的に目指す姿・案を考えてももらいたい(辻井会長)。
- 繊維機械学会の提案の第二誌(和文・英文)の英文の話をどうまとめるのがいいのか、説明できない、ふさわしくないという意見が出ていることを協議会から出してもらうと判断しやすい。繊維機械学会の編集委員長の意見を外すことはできない(田上会長)。
- JFST(英文)+日本繊維学会誌(和文)の案と繊維機械学会(案) ; JFST+第二誌(和文・英文)が出て平行線状態となり、WG内で進めることができなくなっている。繊維機械学会内でも意見を出し合って、時間をかけて、まとめないといけない(大矢会長)。
- 最終結論はわからないが、繊維機械学会内で話しあうことも最終答申までに進めていきたい。第二誌(和文・英文)の英文は、技術色が強い論文(英文)を入れていく話は無理があるので、何とかしたいと思う。カテゴリーをどうするかも議論する(田上会長)。
- カテゴリーでクラス分けできるか、和文だけでいいのか。和文誌が消滅しないように考えたい(西脇様)。

⇒各学会内でさらに議論を深め、次回協議会で方向性を決定する。

(5) 年次大会検討 WG (田上会長より)

- 年次大会のコンセプト開催時期、曜日、会場費、企画等についての議論が行われた。開催時期と開催曜日の議論がある。各学会の独自企画をどこまで採用するかは決まっていない。
⇒費用の見込みを考えながら、具体的にまとめていく。

(6) 催事・研究(委員)会検討 WG (倉敷副会長より)

- 研究会の規定確認、オープンクローズドの協議、経費見積もり等について議論が行われた。特に、研究会に対する本部からの補助金の配分基準について詳細に検討された。
- (西脇副会長より) 年間の経費などのラフ案がもらえると有難い。
⇒各研究会の規定を精査し、経費見積もりをまとめる。

(7) 国際化 WG (金井副会長より)

- シンポジウム、カンファレンスの実施、国際共同研究、若手の国際人材育成、国際広報について議論が行われた。特に、国際的なネットワーク構築のための具体的な施策について検討された。
⇒各提案について具体化し、次回協議会で報告する。

(8) 財務検討 WG (西脇副会長より)

- 会費の精度確認、各学会の予算見積もり、魅力ある学会運営について議論が行われた。特に、企業会員の会費設定について詳細に検討された。
- 学会誌は前田印刷でのパターン分けした見積もりを取っている。
⇒どういう考え方で進めているのかをわかるように財務内容を詰めて、概算の収支シミュレーションする。

(9) HP 検討 WG

- 報告事項なし

3. WG最終答申と今後の対応

• 本日説明・議論がなされた各WGからの最終答申方針が会員公聴会として成立するのかどう確認したい。公聴会は恐らく時間として90分～120分のプレゼンテーション、質疑（補足説明を入れて）30分～60分程度が想定される。従って、詳細な説明がなされてるかどうかもさることながら会員に「合併した学会はどうあるべきか」を第一義と考えたい。その本質は「合併に」共感を得られる内容になっているのかが問われることになる。

• 更には前回指摘された課題が説得力をもって説明がなされているかを注視しておきたい。
会員公聴会では、各学会が三学会合併について会員に真摯に向き合ってプレゼンテーションができるかどうかが問われる。WG／協議会は真価を示す覚悟をもって臨みたい。

⇒最終答申（中間答申）としてまとめて、各学会で会員へ公聴会を開いて、意見を聞く機会を設ける（大矢会長）。

• 各学会での公聴会に向けて、位置づけを説明しつつ、この協議会で、三学会での共通の資料を作りたいがどうか（辻井会長）。

• 会員へは、“どのような学会になってほしいか”を中心にヒヤリングしては。公聴会（会員へのプレゼンテーション）は、この協議会の内容が軸になるが、各学会で作成するのが良いと思う。この協議会資料は、別添＆各学会ホームページで閲覧できるようにしてはどうか（西事務局長）。

• エッセンスをくみ取った協議会資料を三学会共通でつくっていきたい。どういう議論で、どういう方針があるのかを先に確認したい。もし合併時期が遅れても、しっかり大事な議論はしたい（辻井会長）。

⇒会員への公聴会資料は、次回の協議会で再度議論する。

最終答申の名称は、10/31に再度議論する（田上会長）

4. その他

- 10月20日が三学会答申の締切。

次回の予定／ 日時：10月31日(木)15：00～18：00／ハイブリッド開催（幹事学会：繊維機械学会）
会場：大阪科学技術センター4階402号室
内容：各WGからの最終答申案を取りまとめ、会員公聴会に向けた準備を進める。